

“東桑西移” 背景下における中国シルク産業の現状と問題に関する研究

○ (杭州電子科技大学) 范作冰

(東京農工大学) 小野直達・王麗娜・加賀美思帆

(日本農業法人協会) 数納朗

Zuobing Fan, Naotatsu Ono, Lina Wang, Shiho Kagami, Akira Sunou: A Study about the Present Conditions and Problems of the Chinese Silk Industry under the Background of “Transfer of the Chinese Silk Industry from East to West”

Key Words: transfer of the Chinese silk industry from east to west, Chinese silk industry, present conditions and problems, suggestions

一、「東桑西移」プロジェクトの実施の原因

「東桑西移」プロジェクト（中国語では「東桑西移」工程と言う）は中国の社会主義新農村建設政策の下で、西部大開発プロジェクトの実施に伴い、中西部地区の経済発展を促進するとの戦略方針に基づき、中国シルク産業の構造調整を加速させるために実施される産業振興措置である。このプロジェクトの実施の原因は以下の3点にある。

1、「東桑西移」プロジェクトの実施は、中西部地区の農民の収入拡大に役に立ち、当地の社会主義新農村建設に促進できる。統計によると、山西省、甘粛省と寧夏自治区では桑園1畝（1Ha=15畝）当りの収入は約2000元で、広西自治区では桑園1畝あたりの収入は3500元に上っている。そして、「東桑西移」プロジェクトの実施は中国中西部地区の「三農」問題の解決と社会主義新農村建設の促進に大きな意義を持っている。

2、「東桑西移」プロジェクトの実施は、中国シルク産業の構造調整と持続的発展に重要な意義を持っている。従来、中国のシルク生産地は東部の沿海地域に集中しているが、近年における東部沿海地域の経済高度成長に伴い、労賃はとんとん上がっていき、生産コストは高騰している。それにより東部地域での養蚕業の衰退が見られ、数年前から東部沿海地域から中西部地域へと移動する傾向にあった。

3、「東桑西移」プロジェクトの実施は、中国シルク産業の国際競争力の向上と世界市場での地位の確保、及び中国をシルク大国からシルク強国へと転身させるための重要な措置である。

二、「東桑西移」プロジェクトの概要

1、目標：中西部地区において、200個の規模面積1万畝以上、技術的に先進的で、市場サービスネットワークが健全な現代化の良質繭生産基地を建設し、9つの新興繭産地を形成する。50軒の“公司+養蚕農家”が中心とする経営形式で、10組以上の自動繰糸機の加工能力が有する初級的なシルク加工企業と30軒の研究開発・生産加工が一体化し、自主的研究開発能力の強い大型シルク企業を育成する。20個の自主的知的財産権を有し、国際市場におけるマーケティングネットワークを有する国内外地名のシルクブランドを育成する。

2、内容：1) 養蚕業では、点（繭生産基地）の発展により面（繭生産基地周辺地域）の発展を促進することを図る（以点促面と言う）、特に中西部地区における国家級良質繭生産基地の建設が重点的に援助される。2) シルク加工業では、東部の企業の発展により中西部のシルク企業の発展を促進することを図る（以東促西と言う）、特にシルク製品の生産の技術性と深加工水準の大幅な向上に力を入れる。3) シルク貿易では、国内消費市場を開拓すると同時に、積極的に国際シルク消費市場の開拓とシルクブランドの育成を追求し、シルク消費の拡大を図る（以内促外）。

3、進捗：「東桑西移」プロジェクトは5年計画で、その実施は、2つの段階に分けて実施される。

第一段階（2006-2008）：中西部地区において、繭と生糸の生産の着実な発展を実現する。一定の数量の1万畝以上の繭生産基地を建設し、シルク産業を一部の中西部地区の基幹産業にさせる。東

部地区において、自分の現有の良質繭生産基地とシルク加工企業の生産の現代化水準を向上し、中西部地区のシルク産業の発展を促進する。

第二段階（2009-2010）：中西部地区において、繭の生産技術水準を更なる向上し、一定の数量の国家級重点繭生産基地と一定の規模の初級的シルク加工企業を形成する。東部において、シルクの深加工水準を全面的に向上し、シルクブランドの育成を顕著的に発展し、中西部のシルク産業を引っ張って安定的に発展していく。シルク産業の“11・5”計画の目標を全面的に実現し、200万畝の桑園と200万担の繭生産量が伴に増加し、中国はシルク大国からシルク強国へと転身の目標を基本的に実現する。

三、「東桑西移」背景下における中国シルク産業の現状

従来、中国のシルクの主産地は東部の江蘇、浙江、広東、山東などの省に集中している。しかし、近年これらの省における著しい経済発展により、養蚕業と製糸業の衰退が見られ、中西部地区の一部の地域では繭と生糸の生産量が大幅な伸びを示している。特に広西自治区において、2000年以後の繭と生糸の増産は著しく、飛躍的な発展を見せている。この背景の下で、中国政府は2006年から本格的に「東桑西移」プロジェクトを実施している。このプロジェクトの実施の下で、中国シルク産業の現状は以下の特徴が見られる。

1、繭と生糸の生産は大幅に増産し、僅か2年間で繭と生糸の生産量は伴に20%以上を増加した。

2、全国的に養蚕地帯の分布は伝統的な主産地である東部沿海地区から中西部の内陸地区へシフトしていると伴に、東部の各省の中でも、東（経済発展の先進的地域）から西（経済発展の後進的地域）へ移動している。

3、このプロジェクトの援助で、より規模的、標準的、科学的な繭生産基地（大規模桑園）、稚蚕共育室、養蚕大棚などの養蚕設備を建設されることによって、養蚕方式は徐々に粗放的から集約的な方向に変っている。

4、中国の商務部から各地方の管理部門（繭糸弁）まで、「東桑西移」プロジェクトの実施とシルク産業のこれからの発展を良く重視しており、このプロジェクトの順調的展開に必要な具体的な措置を真剣に準備している。

5、中国は最近「全国繰糸絹紡企業生産経営資格核準弁法」、「生繭收購資格核準弁法」などの一連の法律の制定を準備しており、業界に対して法的管理を強化している。

6、中国は自分のシルク製品の知名度と世界市場においての影響力を高めるために、中国のシルク製品に“高档シルク標識”導入しており、その国際市場での影響は広がっている。

7、商務部は業界の生産に対する監視を以前より強化しており、インターネットで繭糸市場監視システムと「東桑西移」工程情報提供システムを建設している。

四、「東桑西移」プロジェクトの実施による中国シルク産業の直面している問題

1、急激な繭増産による繭品質は低下しており、繭の品質向上のための養蚕技術の普及が今後の大きな課題である。

2、桑園の拡大は食糧生産に影響を与えるため、現段階では中西部地区の食糧主産区での養蚕拡大は限界がある

3、新興の繭産地では産業チェーンと人材などはまた備えてなく、これらの地域での産業全体の安定的、持続的な発展は今後の大きな課題である。

4、その他の問題（資金問題、技術問題、新産地でのシルク産業への認識の問題など）

この論文に関連する研究項目：

- 1) 中国国家社会科学基金資助項目（08BJY008）
- 2) 教育部留学回国基金資助項目（教外司留「2007」1108号）
- 3) 浙江省銭江人才計劃資助項目（QJC0602013）
- 4) 浙江省哲学社会科学規劃資助項目（06CGGL26YBQ）